モアイは語る――地球の未来 (1)

安田 喜憲

（次の文章は、南太平洋の孤島イースター島にあるモアイという巨大な石像に関する論説です。イースター島はチリ領の火山島で、島内では千体近いモアイが発見されています。）

3 絶海の孤島の巨像を作ったのは誰か。謎が謎を呼び、宇宙人がやって来て作ったのではないかという説まで飛び出した。しかし、最近になって、①それは西方から島伝いにやって来たポリネシア人であることが判明した。墓の中の化石人骨の分析や、彼らが持ってきたヒョウタンなどの栽培作物の分析から明らかになったのだ。さらに、初期の遺跡から出土した炭化物を測定した結果、②ポリネシア人が最初にこの島にやって来たのは、五世紀頃であることも明らかになった。

4 その頃、人々は※ポリネシアから運んできたバナナやタロイモを栽培し、豊かな海の資源を採って生活していた。そして、十一世紀頃、突然巨大なモアイの製造が始まる。同じ時期に、遺跡の数も急増しており、この島の人口が急激に増加を始めたことがわかる。人口は百年ごとに二倍ずつ増加し、十六世紀には一万五千から二万に達していたと推定されている。

5 大半のモアイは、島の東部にあるラノ・ララクとよばれる石切り場で作られた。このラノ・ララクには、モアイを作るのに適した軟らかい凝灰岩が露出していたからである。人々は硬い溶岩や黒曜石でできた石器を使って、モアイを削り出した。

（3～5は教科書本文における形式段落番号を表します）

※ポリネシア…太平洋に広がる、ハワイ・ニュージーランド・イースター島を結んだ三角形の中に含まれる島々の総称。

意見と根拠

本文では、述べられた内容に対して根拠となる事実が示されている。根拠として何が示されているか論理の展開を読み取るようにする。

（例）**問い**　モアイを作ったのは誰か

答え　西方から島伝いにやって来たポリネシア人

（根拠）　墓の中の化石人骨の分析　栽培作物の分析

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ――線①「それは西方から島伝いにやって来たポリネシア人である」とあるが、これに対する根拠となる内容が示された一文を探し、最初の三字を答えなさい。

(2) ――線②「ポリネシア人が最初にこの島にやって来たのは、五世紀頃である」とあるが、この根拠と考えられるものを選びなさい。

ア イースター島の墓の中の化石人骨を調べたところ、それがポリネシア人のものであったこと。

イ イースター島の栽培作物を調べたところ、それがポリネシアの島々のものと同じであったこと。

ウ イースター島の初期の遺跡から出土した炭化物を調べたところ、それが五世紀頃のものであったこと。

エ イースター島のモアイが作られた年代を調べたところ、十一世紀頃にモアイの製造が始まっていたこと。

〔　〕

(3) 筆者は、十一世紀頃にイースター島の遺跡の数が急増していることから何がわかると述べているか。適当なものを選びなさい。

ア 十一世紀頃にモアイの製造が始まったこと。

イ 大半のモアイは島の東部の石切り場で作られたこと。

ウ イースター島でバナナやタロイモが栽培されていたこと。

エ イースター島の人口が十一世紀頃から急増したこと。

〔　〕

(4) 本文で説明されているイースター島の変化に合うように、次の**A**～**C**の時代に当てはまるものをそれぞれ選びなさい。

A 五世紀頃 〔　〕

B 十一世紀頃 〔　〕

C 十六世紀 〔　〕

ア イースター島の人口が一万五千から二万人に達していた。

イ イースター島の人口が急激に増加を始めた。

ウ ポリネシア人が初めてイースター島にやって来た。